

# 看護系大学が卒業生に行うキャリアの動向調査と 支援に関する文献検討

重松 諒承<sup>\*1</sup>・橋詰 広嗣<sup>\*1</sup>・藤田 敦子<sup>\*1</sup>・俣木 洋子<sup>\*2</sup>・加藤 慎一<sup>\*3</sup>

## Literature review of career trend surveys and support provided to graduates by nursing colleges

Ryosuke Shigematsu<sup>\*1</sup>, Hirotsugu Hashizume<sup>\*1</sup>, Atsuko Fujita<sup>\*1</sup>,  
Yoko Mataki<sup>\*2</sup>, Shinichi Kato<sup>\*3</sup>

### 要旨

医中誌WebとGoogle Scholarで検索した看護系大学が行う卒業生のキャリア調査・支援の検討に関する論文から、A大学における卒業生への動向調査や支援内容の検討へと繋がる資料を得ることを目的とした。卒業生のキャリアに関する調査は、就業状況や転職理由、キャリアに影響する要因に焦点が当てられていた。キャリアは経時的に変化し多くの要因に影響されるため、その過程や影響要因の具体的内容を明らかにする調査項目が必要であることが明確となった。キャリア形成支援では、自己研鑽機会提供や悩みへの支援、卒業生同士の交流の重要性と、大学ごとに卒業生のニーズに合わせた具体的支援を検討することが必要であると示唆された。

キーワード：看護系大学、卒業生、キャリア支援、文献検討

### I. 緒言

近年の急速な少子高齢化、医師の働き方改革に伴うタスクシェアリングの推進や医療の高度化・専門化を背景に、看護職にはこれまでに比べより高い知識・技術の習得が求められている。このような背景から、看護職は看護基礎教育終了後も自己研鑽に努め、キャリアを中長期的に発展させていく事が重要であると言える。キャリアを発展させていく力は、専門職としての自発的な能力開発を継続するための能力として、学士過程で育成することの重要性が明記されている<sup>1)</sup>。また、在学生のみならず大学として卒業生が生涯を通じてその能力を向上させ、発揮し続けることを組織的に支援する体制を検討していく必要があるとも述べられている<sup>1)</sup>。つまり、卒業生の看護職の生涯学習支援を積極的に行い、大学としての社会的責任を果たすことが求められている。しかし、現状具体化する方法は模索中で、今後開発していく必要があると指摘されてい

る<sup>2)</sup>ように、著者らが勤務する大学（以下、A大学）においてもその方法は模索中である。

卒業生へのキャリア支援を検討するにあたり、効果的な支援を実現する為には卒業生のキャリアの現状や要望に即したものでなければならない。しかし、現段階ではA大学卒業生が卒後どのように看護職としてのキャリアを歩んでいるのかは明らかとなっておらず、現状調査から始める必要がある。そこで、本研究ではA大学での調査やキャリア支援の検討に向けて、先行研究における看護系大学の卒業生を対象としたキャリアに関する調査および支援に関する文献を概観し、調査の項目や、卒業生を対象としたキャリア支援方法に関する示唆をまとめる。また、その結果から卒業生のキャリア動向調査の調査項目の明確化およびキャリア支援内容の検討に繋がる資料を得ることを目的とする。

### II. 方法

#### 1. 対象文献の選定

医中誌Webで、「看護生涯教育/TH」×「職歴の移動/TH」or「キャリア形成/AL」および「キャリア教育/AL」×「看護基礎教育/TH」、「看護基礎教育/TH」

\*1：姫路大学看護学部・Himeji University, School of Nursing

\*2：姫路大学 教務・学生・厚生課 健康管理室・Himeji University, Education Department, Academic Affairs, Student Affairs and Welfare Division, Health Management Office

\*3：豊岡短期大学 姫路キャンパス 教育学部・Toyooka Junior College, Himeji Campus, Education Department

×「職歴の移動/TH」or「キャリア形成/AL」,「キャリア教育/TH」×「職歴の移動/TH」or「キャリア形成/AL」の4通りを検索した(検索日:2023/3/20)。会議録は除外し、2009～2021年に限定した。538件がヒットし、タイトルと抄録から看護系大学が行っている卒業生への動向調査やキャリア支援、あるいは支援内容の検討を目的としている論文のみを選択し、重複文献を除くと15件となった。Google Scholarでは、「看護大学卒業生」と「キャリア支援」のキーワードで、2009年～2021年に限定し検索した。結果、4,650件がヒットした。この方法では、入力したキーワードの一部(例えば“看護”, “大学”, “卒業生”, “キャリア”, “支援”)が入っているものが検出されるため、キーワード一致数の多い関連性順に並び替える機能を使用した。また、検索エンジンの仕様上、940件目以降の検索結果が表示できなかったため、この範囲内で検討した。タイトルと、該当キーワード前後の文章を読み、上述した条件に合う論文は、医中誌Webとの重複文献を除き3件が該当した。計18件の論文を分析対象とした。

## 2. 分析方法

対象文献を、出版年、研究目的、研究対象者、研究方法、結果と考察の概要を一覧表に整理した。次に、調査項目内容ごとに分け該当する論文を整理した。また、本文の記述内容から大学が行う卒業生へのキャリア支援に関する示唆を1つの意味内容になるように抽出し、その内容の類似性から分類し名称をつけた。

## 3. 倫理的配慮

公開後の文献を使用し、引用や参照した場合には出典を明記した。また、先行研究の知見と自らの知見を区別して述べることで著作権等の侵害がないように配慮した。

## Ⅲ. 結果

### 1. 対象文献の概要

分析対象となった論文を表1に示す。また、実施・調査内容ごとに分けたものを表2、キャリア支援への示唆や提言をまとめたものを表3に示す。研究目的では、卒業生の動向調査が最も多く12件で、キャリア形成支

表1. 文献リスト

タイトル	筆頭著者名 発行年	研究対象	研究デザイン
大学と就業施設の協働による学士課程卒業生への看護生涯学習支援のあり方 <sup>2)</sup>	岩村龍子 2017	A病院の教育担当委員会メンバーのうち、看護部教育責任者と施設側で選択された看護職6名の計7名	質的帰納的研究
卒業して8ヵ月目及び2年目看護師に対するキャリアアップ支援の試み アサーティブネス研修を実施して <sup>3)</sup>	美王真紀 2017	卒後8ヵ月目(99名)と卒後2年目(82名)計181名	活動報告
卒後1年目卒業生の教育内容の評価とキャリアアップの取組状況 看護学部卒業生のアンケート調査より <sup>4)</sup>	田中久美子 2021	2017年度、2018年度(1-2期生)の卒業生174名	アンケート調査
高知大学医学部看護学科の卒業生動向調査1期生から13期生を対象として <sup>5)</sup>	寺下憲一郎 2015	1期生から13期生までの卒業生882名のうち、大学および同窓会で現住所の把握できていた651名を対象	アンケート調査
石川県立看護大学看護学部卒業生の動向調査 <sup>6)</sup>	南堀直之 2014	2004年から2012年3月までに卒業した石川県立看護大学看護学部卒業生780人のうち、郵送が可能であった729人	アンケート調査
看護系大学におけるキャリア開発支援に関する研究 卒業生の動向調査から <sup>7)</sup>	竹本由香里 2014	東北圏内にあるA大学看護学部1～9期までの卒業生855名	アンケート調査
A大学看護学部卒業生の動向調査 就業状況を中心に <sup>8)</sup>	塩澤百合子 2020	A大学看護学部の第1期生から第7期生732名のうち、同窓会名簿において住所の判明している者	アンケート調査
京都橋大学看護学部卒業生の動向ならびに意識調査 <sup>9)</sup>	西野毅朗 2020	京都橋大学看護学部卒業1期生から10期生のうち、アンケートが配布可能であった卒業生796名	アンケート調査
長野県看護大学看護学部卒業生の動向調査 1期生(1998年度卒業)から16期生(2013年度卒業)までの調査 <sup>10)</sup>	竹内幸江 2017	1998年度から2013年度までに卒業した1377名のうち、同窓会から開示される情報を得ることができた817名	アンケート調査
卒業生動向調査からみた本学におけるキャリア形成支援の検討(第1報) 卒業時における就職先の選択理由と現在の就業状況の観点から <sup>11)</sup>	藤尾麻衣子 2014	武蔵野大学看護学部1回生86名、2回生93名の179名	アンケート調査
自治医科大学看護学部卒業生の現状調査 看護職を継続するために要因に着目した一考察 <sup>12)</sup>	浜端賢次 2014	自治医科大学看護学部1期生から7期生までの750名	アンケート調査
看護学生の就業先選択の傾向と特徴—初年度卒業生の就職先選定に着目して— <sup>13)</sup>	小栗裕子 2018	平成27年3月に卒業した進学者を除く67名	アンケート調査
東京医療保健大学保健学部看護学科卒業生の動向調査(第1報) 職業コミットメントに焦点をあてて <sup>14)</sup>	岡田弘美 2017	平成21年から平成28年度の東京医療保健大学医療保健学部看護学科卒業生891名	アンケート調査
東京医療保健大学医療保健学部看護学科卒業生の動向調査(第2報) 卒業生が職務遂行する中でキャリアを育む経験と求める支援 <sup>15)</sup>	川原理香 2017	卒業期を3群(卒後6-8年、卒後3-5年、卒後1-2年)各群から看護師・助産師・保健師を含む5-6名、計16名	質的記述的研究
学士課程卒業後の新任看護職におけるキャリア発達に関する調査 <sup>16)</sup>	服部紀子 2010	横浜市立大学医学部看護学科2008年度卒業生(1回生)83名	アンケート調査
卒業生動向調査からみた本学におけるキャリア形成支援の検討(第2報) 今後の就業継続状況と大学院進学の観点から <sup>17)</sup>	大井千鶴 2014	武蔵野大学看護学部1回生86名、2回生93名の179名	アンケート調査
聖路加国際大学卒業生のキャリアの傾向と年次推移 聖路加国際大学看護教育100周年記念卒業生動向調査から <sup>18)</sup>	米倉佑貴 2021	聖路加国際大学およびその前身校で看護基礎教育および大学院教育を受けた者のうち聖路加同窓会に住所の登録がある者3771名	アンケート調査
岐阜県立看護大学が取り組む「卒業生支援・キャリア形成支援事業」の実績と成果 <sup>19)</sup>	田辺満子 2019	これまでの取り組みの振り返りであるため明確な対象者なし	活動報告

表2. 実施・調査内容一覧表

実施・調査内容	文献
卒業時、現在の就業状況に関する事項	5) ,6) ,7) ,8) ,9) ,10) ,11) ,12) ,13) ,14) ,16) ,17) ,18)
卒業生の自己のキャリアへの考え方に影響した経験	15)
卒業後に求める支援	5) ,6) ,7) ,8) ,10) ,15) ,16)
仕事への満足度や就労を継続意思と継続できている理由	6) ,8) ,9) ,12) ,14)
職業コミットメント	14)
職場での困難や悩み、負担となっていること	5) ,8) ,14) ,16)
自己学習の取り組み状況（自己研鑽、進学状況）	5) ,9) ,10) ,12) ,18)
今後のキャリアの希望	5) ,8) ,9) ,12) ,14) ,16) ,17)
大学時代の過ごし方や授業・教育に対する振り返り(評価も含む)	4) ,6) ,9) ,10)
卒業生に対する研修を含めたキャリア支援の実施と評価	3) ,19)
現在の看護実践能力の自己評価	9)
就業施設の教育担当看護職と大学教員による検討会の実施	2)

表3. 大学における卒業生へのキャリア形成支援への示唆 分類一覧

分類	内容
キャリアアップに向けた自己研鑽 機会の提供と支援体制の構築	・様々な研修会の情報提供や、その年代の役割に応じた研修を開催する。 <sup>2)</sup>
	・事例研究法などの研修会を開催する。 <sup>2)</sup>
	・アサーティブネス研修でのグループワークを通して具体的方略の修得や先輩・後輩でのやりとりの難しさを体験することで、職場の人間関係の改善に役立ったため、母校に戻っての研修には意義がある。 <sup>3)</sup>
	・公開の研修など、自己研鑽の機会を用意する。 <sup>5)</sup>
	・研修内容だけでなく、参加してもらえるような日程調整も重要である。 <sup>7)</sup>
	・大学が公開している研修等の情報を広く周知する。 <sup>8)</sup>
	・開放しているシミュレーション室などの利用継続を促す。 <sup>8)</sup>
	・大学への卒後支援を期待する声が多く資格取得意思が高いことから、卒業生に対する資格取得を支援方法を模索する必要がある。 <sup>9)</sup>
	・卒業生を対象とした研修会を企画する。 <sup>10)</sup>
	・卒業生の主体的な個人の学習を支える支援体制づくり。 <sup>16)</sup>
卒業後の悩みや困難に対する 相談・支援体制の構築と提供	・所属部署の課題解決への取り組みを支援する。 <sup>2)</sup>
	・各都道府県の看護協会等と連携をとりながら再就職や職務継続の支援を行うことも方法の一つである。 <sup>7)</sup>
	・施設と協同しながら看護職者が心身の健康を維持し、就業を継続できる支援体制づくりにも関わっていく。 <sup>7)</sup>
	・卒業後、困難な状況をサポートする相談窓口の設置を検討する。 <sup>8)</sup>
	・今後の様々なライフイベントに備え、学部教員による相談支援の活用を進める。 <sup>8)</sup>
	・卒業生のキャリア形成を支援する窓口等の設置を検討する。 <sup>10)</sup>
	・キャリアに関する悩みに対しての大学としての支援を検討する。 <sup>14)</sup>
	・迷い、悩む時には大学に支援を求めることができる仕組みを創りあげていく必要がある。 <sup>15)</sup>
卒業生の繋がりを維持し、相互 作用によりキャリアを育む支援 体制の構築と提供	・在校生と卒業生との交流機会を設け、現状や看護への思いを表出することを通して自らを振り返る事ができる支援が必要である。 <sup>2)</sup>
	・卒業年度を超えた交流会を設け看護師としての生き方やキャリアパスについて学べる支援を検討する。 <sup>2)</sup>
	・教員を交えた同期卒業者同士の交流会を設け、期待されている役割や課題を認識し看護のモチベーションを高める支援が必要である。 <sup>2)</sup>
	・教員を交えた新卒者同士の交流機会を設け、頑張りを認め合い、気持ちをリフレッシュさせて職場適応を支える支援が必要である。 <sup>2)</sup>
	・大学院進学者からの学びや経験を共有する機会を設け、進学への動機づけや現場での課題解決への支援が必要である。 <sup>2)</sup>
	・ワークライフバランスを取りながら看護実践を継続している先輩の話聞く機会を設ける。 <sup>2)</sup>
	・インターネットを活用し、気軽に情報交換できる仕組みを用意する。 <sup>5)</sup>
	・同窓会活動の充実を図る。 <sup>6)</sup>
	・看護学生との交流のできる機会の検討をする。 <sup>7)</sup>
	・学生時代の繋がりを卒業後も継続できるような方法を検討する。 <sup>10)</sup>
	・自己の看護を振り返ることで看護のやりがいや楽しさを実感し、看護職を誇りに思えるような支援を検討する。 <sup>14)</sup>
	・卒業生同士の交流の場を提供やキャリアのモデルとなる人を紹介するなど、キャリアデザインを構築する支援が必要である。 <sup>14)</sup>
	・同窓生同士が互いに支え合うことが出来る支援体制づくり。 <sup>16)</sup>
	・新卒者交流会は個々で悩んできた問題が共有でき、ひとりだけが悩んでいるのではない事に気づき今後の活力になっている可能性がある。 <sup>19)</sup>
	・自己の実践を振り返り話し合うことで互いの頑張りを認め合い、気持ちをリフレッシュさせて職場適応を支援することには効果がある。 <sup>19)</sup>
	・同級生と交流を行うことで励みとなり、その後の就業継続に繋がっている可能性がある。 <sup>19)</sup>
	・卒業者交流会は先輩は先輩の頑張りを身近に感じ、先輩は後輩のキャリア形成過程での苦悩と同時に頑張ってきた自分の実践を振り返り、看護について考える機会となっていた。 <sup>19)</sup>
	・卒業生への情報提供や、卒業生同士が就業・障害学習に関する情報交換ができるシステム等の構築が必要である。 <sup>19)</sup>
	・大学と接点が乏しい卒業生の就業・学習ニーズの把握方法などの検討が必要である。 <sup>19)</sup>

援の示唆やあり方を検討しているものが9件あった(動向調査と併せて行っているものを含む)。また、キャリアを育む経験や、卒業生が卒後に体験している困難や負担感、キャリアアップの上で求める支援や大学への要望を明らかにすることを目的とした研究もあった。

## 2. 卒業生のキャリアに関する調査内容について

実施・調査内容(表2)で最も多いのは卒業時と現在の就業状況に関する設問で、就業先と選択理由、転・退職の有無と理由、出身地と就職地域などを問うていた。経験年数を重ねると看護師以外の職種の割合が増加していた<sup>5) 6) 7) 8) 9)</sup>。卒業時の就業先選択では主に、教育・研修の充実<sup>10) 11) 12) 13)</sup>、地元であること<sup>5) 14)</sup>、施設の規模・設備<sup>5) 11)</sup>が重要視されている傾向にあった。転勤や退職の経験がある者は20%~55%<sup>5) 6) 10) 11) 14)</sup>であり、理由は結婚や出産・育児に関連するもの<sup>5) 6) 10) 11) 14)</sup>が上位で、その他、職場での人間関係<sup>11) 14)</sup>、労働環境<sup>5) 6) 11) 14)</sup>、スキル・キャリアアップ<sup>5) 6) 14)</sup>が多かった。

次に多いのは卒業後に求める支援への設問と今後のキャリアへの希望に関する設問であった。前者では、大学に求める支援や、キャリアアップに対して得たい支援を問うていた。進学や資格取得、キャリアデザインに関する相談への要望が多く<sup>5) 6) 7) 10)</sup>、研修会の開催<sup>7) 9) 10) 15)</sup>、研究支援<sup>5) 7)</sup>、図書館などの施設利用の優遇<sup>6) 8) 10) 16)</sup>を求めている。加えて、卒業生同士の情報共有の機会やネットワーク<sup>6) 7) 8) 16)</sup>、学科のイベント情報<sup>5)</sup>や最新情報の配信<sup>6)</sup>など情報共有のニーズが多かった。再就職<sup>7) 16)</sup>やメンタルヘルスへの支援の要望もあった<sup>7)</sup>。後者の設問では、職務継続意思や、進学意思、キャリアアップの認識について問うていた。同じ職場での就労継続希望は約4割、就業先を変えて看護師を続けたい者が2割程度<sup>8) 14)</sup>であるとの報告や、現在の職場での職務継続意思が8割であるとの報告もあった<sup>9)</sup>。進学希望ありは約1割で<sup>9) 12) 17)</sup>、大学院博士前期過程が多かった<sup>12) 16)</sup>。取得希望の資格は認定看護師が最も多かった<sup>16)</sup>。自己研鑽への問いでは、進学や新たな資格取得は10年目以上に多く、学会や勉強会、院内外での研修に参加している者が多かった<sup>10)</sup>。進学者は10.4%~26%<sup>5) 12)</sup>で知識や視野の拡大、専門性向上を目的としていた<sup>5)</sup>。卒業年度が若い群が、修士・博士号取得までの卒業年数が短縮傾向であるという結果もあった<sup>18)</sup>。

職務継続が来ている理由への設問では、同じ部署や同期との励まし合い、趣味などでリフレッシュすることが職務継続に繋がっており、また、役割遂行への肯定的評価や、専門性を高める方法への情報を得る事も職務継続に影響していた<sup>6)</sup>。仕事では、やりが

い<sup>8) 12)</sup>、待遇や給与<sup>8) 12)</sup>、人間関係の良さ<sup>8) 12)</sup>、知識・技術が得られること<sup>12)</sup>が職務満足に繋がっていた。一方、困難や負担への問いでは、研究・学会活動に関心がもてない、職場で研究を求められることに負担を感じる者が最も多く<sup>5)</sup>、自己研鑽が十分に出来ていないと感じる者も多かった<sup>5) 16)</sup>。また、高い知識や技術を求められること<sup>8) 14) 16)</sup>、業務や課題の多さ<sup>8)</sup>、想定外の状況での判断や対処が求められること<sup>16)</sup>、責任の重さ<sup>8)</sup>、職場の人間関係<sup>8) 14) 16)</sup>に困難や負担を感じる傾向にあった。悩みについてはキャリアに関するものが最も多く、キャリアビジョンの明確化や進学・資格所得のタイミングに悩んでいるという報告もあった<sup>14)</sup>。

その他、大学での生活や教育への意見・評価<sup>3) 6) 9)</sup>、ディプロマポリシーに定められた能力に関して大学での教育がどの程度役立ったか<sup>12)</sup>など、大学でのキャリアに関する教育への振り返りに対する設問があった。

## 3. 卒業生に対するキャリア形成支援

卒業生へのキャリア支援実施と評価に関する報告は2件あり、卒業生への研修会の開催<sup>3) 19)</sup>や、卒業生と在校生との交流会の開催、1-3年目を対象にした新卒者交流会および卒業生全員を対象とした卒業者交流会を開催していた<sup>19)</sup>。対象文献内で提案や検討、意義について言及されていた大学が行うべき卒業生に対するキャリア形成支援は、〈キャリアアップに向けた自己研鑽機会の提供と支援体制の構築〉、〈卒業後の悩みや困難に対する相談・支援体制の構築と提供〉、〈卒業生の繋がりを維持し、相互作用によりキャリアを育む支援体制の構築と提供〉の3つに分類された(表3)。

## Ⅳ. 考察

### 1. 卒業生を対象としたキャリアに関する動向調査の調査項目について

大学が実施する卒業生のキャリアに関する調査は、主に卒業時と現在の就職状況の比較や、職歴の異動の有無とその理由など就業状況が中心であった。現在の就業状況や職歴の異動等の定点的内容は、卒業生が看護職としてのキャリアを歩んできた先の結果を表すものであり、その歩んできた過程は考慮されていない。組織内キャリアは、組織の中で一定期間のうちに個人が経験する職務内容、役割、地位、身分などの変化の1系列であり<sup>20)</sup>、連続性のあるものである。加えて、キャリアの選択は、看護職として働く中での環境との相互作用や経験、およびそれらへの意味づけの影響を

受けており<sup>21)</sup>、停滞を示すキャリア・プラトーは、仕事への慣れや能力を発展させることが出来ない状況から生じ、脱するにはキャリア発達に対する動機付けや環境の変化が重要であることが示唆されている<sup>22)</sup>。つまり、キャリアの発達は流動的であり、その中で多くの要因の影響を受けていると言え、結果だけでなく経時的な流れや、その過程における要素にも注意を向けることが重要になると考える。これは、先行研究内で転・退職理由へと繋がる職場環境やライフイベント、キャリアへの認識、職務への困難さがキャリアに影響する要因として注目され、就業状況と共に調査されていたことからその重要性が伺える。このことから、卒業生へのキャリアに関する動向調査の内容には、卒業時と現在の就業状況という一般的な事項に加え、前述した影響要因の具体的内容を卒業生の記述から明らかにできる設問を設ける必要があると考える。また、大学での教育内容の評価や、大学への要望は支援内容の示唆を得る上で重要な情報となっていた。このことから、キャリアの発達に向けて望んでいる具体的支援や大学への要望についても併せて調査し、明確にすることが必要であると考え。

## 2. 大学が行う卒業生を対象としたキャリア形成支援について

大学が行う卒業生へのキャリア形成支援については、キャリアに関する調査結果の特徴から支援内容の検討へと繋げていた。3つに分類されたキャリア支援への示唆について注目すべきは、自己研鑽の場の提供や、悩み・困難への支援、卒業生同士の交流の機会を提供することの重要性だけでなく、これらの支援体制の構築に対する検討の必要があるという示唆が多いことである。これは、緒言でも述べたように大学においてその支援体制が確立されていないことが影響していると考え。結果で示したように設問に対する回答内容は幅が広く、大学ごとに卒業生のニーズやキャリアに関する問題の優先順位に異なる部分を認めた。つまり、大学ごとに卒業生のキャリアの発達に関わる問題は異なる可能性がある。これらに鑑みて、A大学においても調査結果を基に卒業生の特徴に合わせ、結果で示す3つのキャリア支援のより具体的な内容を検討し提供していく必要がある。

## V. 結論

卒業生のキャリアに関する調査は、就業状況や転職理由、キャリアに影響する要因に焦点が当てられていた。キャリアは経時的に変化し多くの要因に影響されるため、その過程や影響要因の具体的内容を明らかに

する調査項目が必要であることが明確となった。また、大学が行う卒業生へのキャリア形成支援は確立されておらず、調査結果の特徴から個々の大学において支援内容の検討を推し進めていくことが必要であると示唆された。

文献検索において検索エンジンの仕様上、検索結果のすべてを確認できなかった。そのため、確認できなかった検索結果の中に本研究の分析対象となる文献がいくつか存在している可能性は否定できず、本研究の限界である。

本研究におけるCOIはない。

## VI. 引用・参考文献

- 1) 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告(2011): [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/1302921.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/1302921.htm), 2023年7月20日。
- 2) 岩村龍子, 大川眞智子, 田辺満子, 他: 大学と就業施設の協働による学士過程卒業者への看護生涯学習支援のあり方, 岐阜県立看護大学紀要, 17(1), 75-84. 2017
- 3) 美王真紀, 岩下真由美, 岡和美, 他: 卒業して8ヵ月目及び2年目看護師に対するキャリアアップ支援の試み アサーティブネス研修を実施して, 宝塚大学紀要, 30, 178-185. 2017
- 4) 田中久美子, 國分真左代, 土田幸子, 他: 卒後1年目卒業生の教育内容の評価とキャリアアップの取組状況 看護学部卒業生のアンケート調査より, 鈴鹿医療科学大学紀要, 28, 73-79. 2021
- 5) 寺下憲一郎, 和田康平, 高橋美美, 他: 高知大学医学部看護学科の卒業生動向調査1期生から13期生を対象として, 高知大学看護学会誌, 9(1), 9-22. 2015
- 6) 南堀直之, 村井嘉子, 中道淳子, 他: 石川県立看護大学看護学部卒業生の動向調査, 石川看護雑誌, 11, 51-61. 2014
- 7) 竹本由香里, 桑名佳代子, 原玲子, 他: 看護系大学におけるキャリア開発支援に関する研究 卒業生の動向調査から, 北日本看護学会誌, 16(2), 23-31. 2014
- 8) 塩澤百子, 板垣昭代, 野尻由香, 他: A大学看護学部卒業生の動向調査 就業状況を中心に, 獨協医科大学看護学部紀要, 13, 73-86. 2020
- 9) 西野毅朗, 川原宣子, 梶谷佳子: 京都橘大学看護学部卒業生の動向ならびに意識調査, 京都橘大学研究紀要, 46, 79-92. 2020

- 10) 竹内幸江, 安田貴恵子, 有賀美恵子, 他: 長野県看護大学看護学部卒業生の動向調査 1期生(1998年度卒業)から16期生(2013年度卒業)までの調査, 長野県看護大学紀要, 19, 23-32. 2017
- 11) 藤尾麻衣子, 大井千鶴, 松村ちづか, 他: 卒業生動向調査からみた本学におけるキャリア形成支援の検討(第1報)卒業時における就職先の選択理由と現在の就業状況の観点から, 武蔵野大学看護学部紀要, 8, 69-75. 2014
- 12) 浜端賢次, 江角伸吾, 島田裕子, 他: 自治医科大学看護学部卒業生の現状調査 看護職を継続するために要因に着目した一考察, 自治医科大学看護学部ジャーナル, 11, 65-73. 2014
- 13) 小葉祐子, 奥宮暁子, 田中博子, 他: 看護学生の就職先選択の傾向と特徴-初年度卒業生の就職先選定に着目して-, 帝京科学大学紀要, 14, 245-250. 2018
- 14) 岡田弘美, 伊藤美千代, 川原理香, 他: 東京医療保健大学保健学部看護学科卒業生の動向調査(第1報)職業コミットメントに焦点をあてて, 東京医療保健大学紀要, 1, 27-33. 2017
- 15) 川原理香, 伊藤美千代, 岡田弘美, 他: 東京医療保健大学医療保健学部看護学科卒業生の動向調査(第2報)卒業生が職務遂行する中でキャリアを育む経験と求める支援, 東京医療保健大学紀要, 12(1), 43-51. 2017
- 16) 服部紀子, 諸田直美, 糸井和佳, 他: 学士課程卒業後の新任看護職におけるキャリア発達に関する調査, 横浜看護学雑誌, 3(1), 45-49. 2010
- 17) 大井千鶴, 藤尾麻衣子, 松村ちづか, 他: 卒業生動向調査からみた本学におけるキャリア形成支援の検討(第2報)今後の就業継続状況と大学院進学の観点から, 武蔵野大学看護学部紀要, 8, 77-83. 2014
- 18) 米倉佑貴, 新沼久美, 森明子, 他: 聖路加国際大学卒業生のキャリアの傾向と年次推移 聖路加国際大学看護教育100周年記念卒業生動向調査から, 聖路加国際大学紀要, 7, 27-36. 2021
- 19) 田辺満子, 小森春佳, 茂本咲子, 他: 岐阜県立看護大学が取り組む「卒業者支援・キャリア形成支援事業」の実績と成果, 岐阜県立看護大学紀要, 20, 105-112. 2019
- 20) 若林満: 組織内キャリア発達とその環境, 経営行動科学, 19(2), 77-108. 2006
- 21) 福井純子: 看護師のキャリア選択に影響を及ぼす要因~経験を積んだ看護師の振り返りの語りから~北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 9(1), 133-139. 2013
- 22) 大賀知津子, 吾妻和美: 中堅看護師のキャリア・プラトーの様相, 京府医大看護紀要, 28, 7-16. 2018